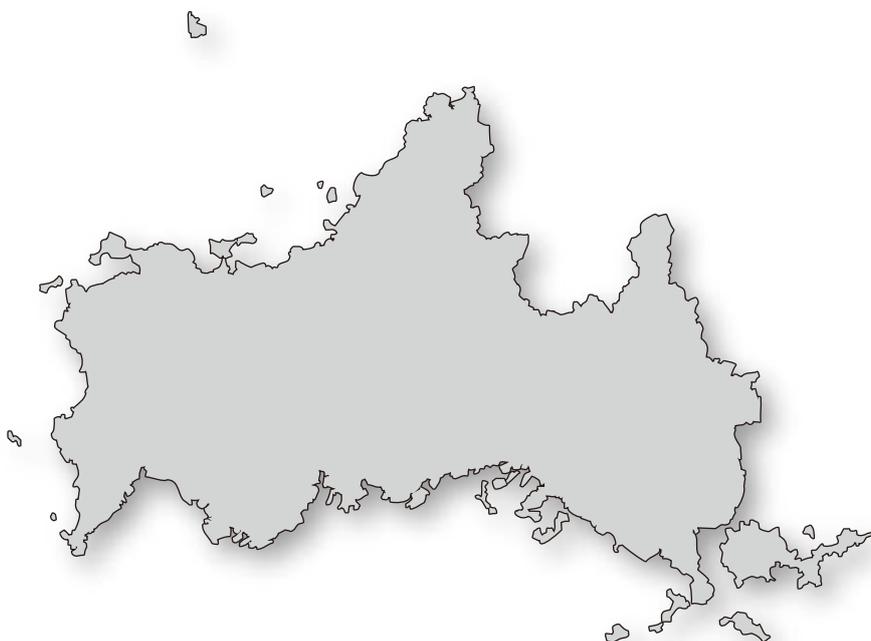


山口県商工会地域 中小企業景況調査報告書

2024年7月-9月期



調査要項	1P
1 山口県 全産業	2P
2 山口県 製造業	3P・4P
3 山口県 建設業	5P・6P
4 山口県 小売業	7P・8P
5 山口県 サービス業	9P・10P
6 全国 全産業	11P
7 山口県 調査対象企業の声	12P~14P

2024年10月25日
山口県商工会連合会

調査要項

1 調査趣旨

この調査は、商工会地域の企業活動状況を把握するため、独立行政法人中小企業基盤整備機構の委託を受けて全国商工会連合会が実施するもので、本会はこれら貴重な景況情報を「山口県商工会地域中小企業景況調査報告書」としてまとめ、商工会の経営改善普及事業の効果的实施に資することを目的とする。(年4回発行)

2 調査対象地区及び対象企業等

- (1) 全国商工会連合会により指定された 614 地区の商工会のうち、山口県は 10 商工会 150 企業を調査対象として指定する。
- (2) 調査対象区域は地域人口等に配慮し、県東部・中部・西部・北部地域の商工会とし、製造業及び建設業は従業員 20 名以下、小売業及びサービス業は従業員 5 名以下の企業規模を対象とする。
- (3) 調査対象企業は、1 商工会地域につき 15 企業とし、業種は製造業、建設業、小売業及びサービス業（サービス業は飲食店、宿泊業、洗濯業、理美容その他のサービス）の 4 種類とする。

3 調査対象期間及び調査時点等

- ・ 調査対象期間及び調査内容は 2024 年 7-9 月期における前期及び前年同期に対する景況感（現況）と来期（2024 年 10-12 月期）における景況見通しを調査した。
- ・ 調査は 2024 年 8 月 19 日から 9 月 2 日の期間に実施した。
- ・ 調査方法は商工会経営指導員による聴き取りでおこなった。

4 回答企業数内訳

業 種	対象企業	構 成 比	回答企業	回 答 率
製 造 業	30	20.0%	30	100.0%
建 設 業	28	18.7%	28	100.0%
小 売 業	42	28.0%	42	100.0%
サービス業	50	33.3%	50	100.0%
合 計	150	100.0%	150	—

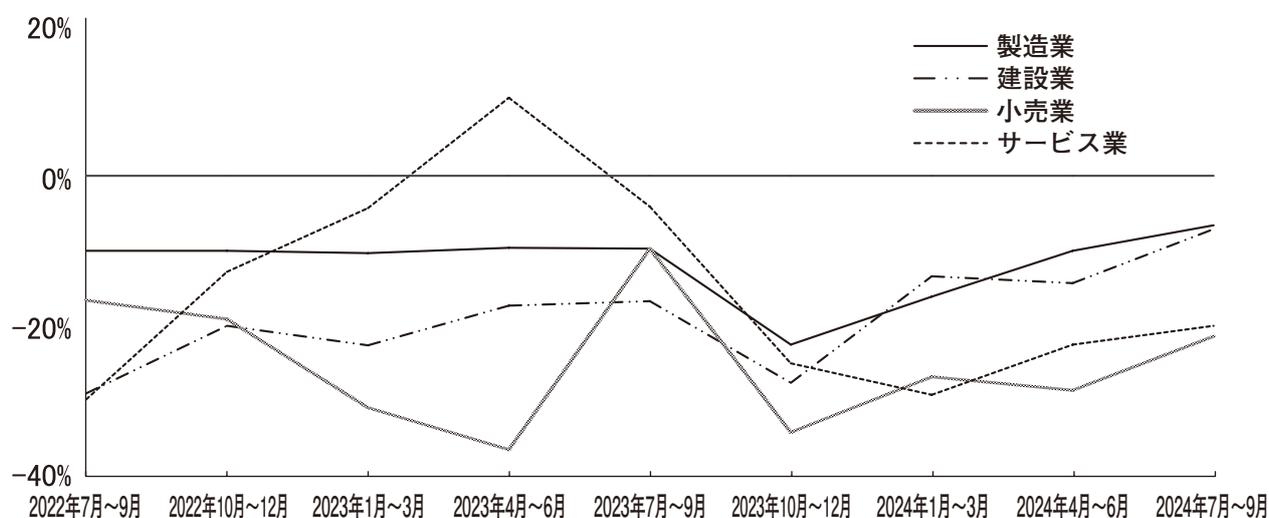
5 業況判断指標

景況を示す業況判断指標は、Diffusion Index (DI) を用いた。DI は前年同期（基準）に対する変化の方向については、上昇（好転）とする回答割合から低下（悪化）とする回答割合を差引いた数値で、「変化の趨勢を示す指標」として用いられている。

※DI がプラスの場合は「強気・楽観」傾向つまり上昇機運にあるとされ、マイナスの場合は「弱気・悲観」傾向つまり低下機運にあるとされている。また、プラス・マイナスが同数（DI ゼロ）の場合は変化がないことを示す。

1. 山口県 全産業

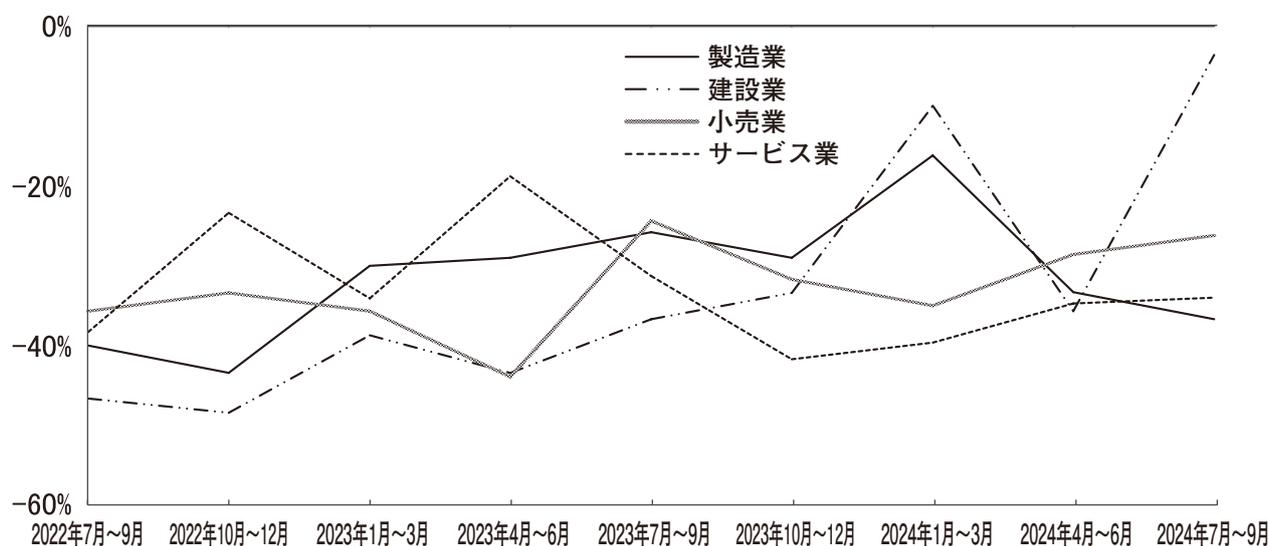
1 売上（完成工事）額の推移 —前年同期比—



D I 値 製造業 -6.6 (前期は -10.0、前年同期は -9.7)、建設業 -7.1 (前期は -14.3、前年同期は -16.7)、小売業 -21.4 (前期は -28.6、前年同期は -9.7)、サービス業 -20.0 (前期は -22.5、前年同期は -4.1)

業況DI値 製造業 -30.0 (前期は -26.7、前年同期は -35.5)、建設業 -10.7 (前期は -21.5、前年同期は -33.3)、小売業 -21.5 (前期は -26.8、前年同期は -17.1)、サービス業 -30.0 (前期は -32.7、前年同期は -25.5)

2 採算の推移 —前年同期比—

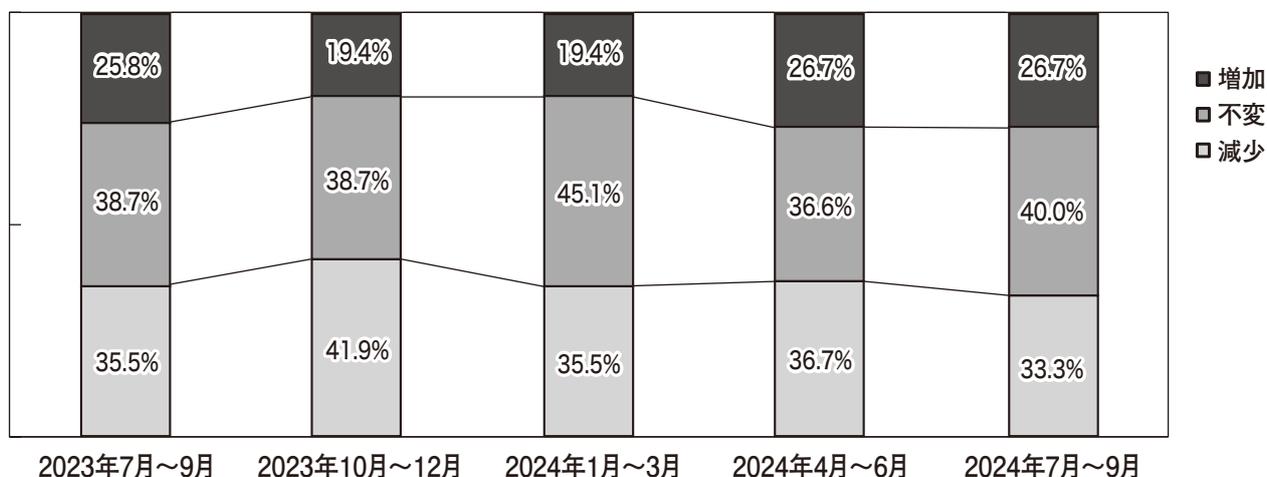


D I 値 製造業 -36.7 (前期 -33.3、前年同期は -25.8)、建設業 -3.6 (前期 -35.7、前年同期は -36.7)、小売業 -26.2 (前期は -28.6、前年同期は -24.4)、サービス業 -34.0 (前期は -34.7、前年同期は -31.3)

資金繰りDI値 製造業 -13.3 (前期は -6.6、前年同期は -16.2)、建設業 -14.3 (前期 -25.0、前年同期は -23.4)、小売業 -9.8 (前期は -24.4、前年同期は -22.5)、サービス業 -18.0 (前期は -24.5、前年同期は -22.9)

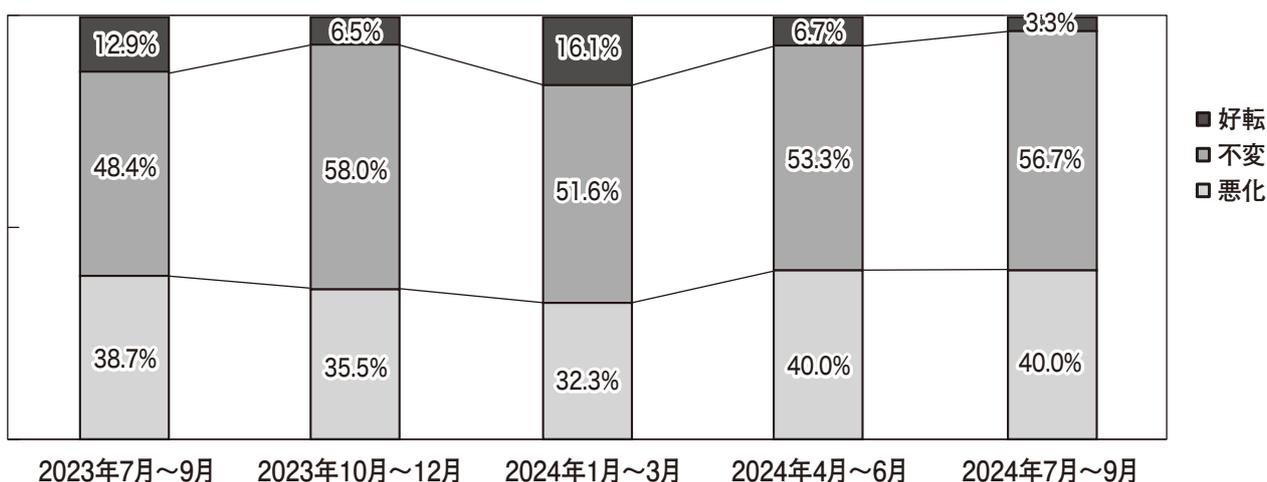
2. 山口県 製造業

1 ①売上額の状況 —前年同期比—



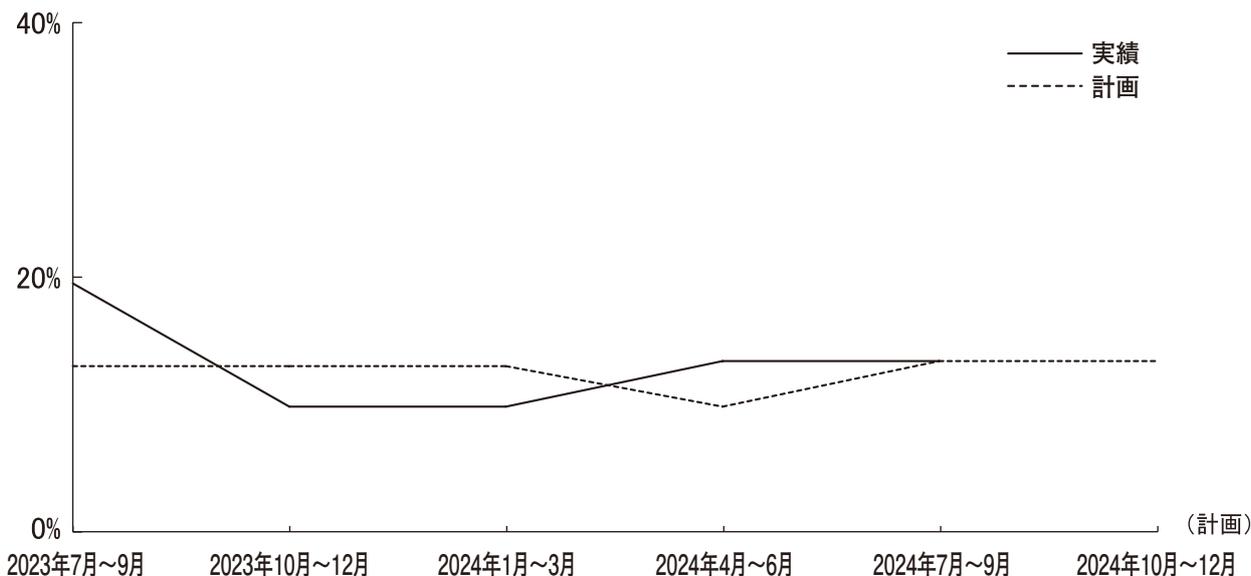
- ②前期と比較 「増加」は 20.0%（前期は 23.3%、前年同期は 22.6%）、「不変」46.7%（前期は 46.7%、前年同期は 41.9%）、「減少」33.3%（前期は 30.0%、前年同期は 35.5%）
- ③来期見通し 「好転」20.0%（前期は 12.9%、前年同期は 19.4%）、「不変」50.0%（前期は 64.5%、前年同期は 38.7%）、「悪化」30.0%（前期は 22.6%、前年同期は 41.9%）
- ④その他のD I 値 原材料在庫数量 - 6.6（前期は - 20.7、前年同期は - 3.4）、製品在庫数量 0.0（前期は - 18.5、前年同期は 0.0）、売上単価 30.0（前期は 40.0、前年同期は 25.8）、売上数量 - 30.0（前期は - 30.0、前年同期は - 16.1）

2 ①採算の状況 —前年同期比—



- ②来期見通し 「好転」6.7%（前期は 9.7%、前年同期は 12.9%）、「不変」63.3%（前期は 74.2%、前年同期は 58.1%）、「悪化」30.0%（前期は 16.1%、前年同期は 29.0%）
- ③資金繰り 前期と比較で、「好転」3.3%（前期は 6.7%、前年同期は 3.2%）、「不変」80.0%（前期は 80.0%、前年同期は 77.4%）、「悪化」16.7%（前期は 13.3%、前年同期は 19.4%）
来期見通しは、「好転」6.7%（前期は 3.2%、前年同期は 3.2%）、「不変」80.0%（前期は 83.9%、前年同期は 74.2%）、「悪化」13.3%（前期は 12.9%、前年同期は 22.6%）

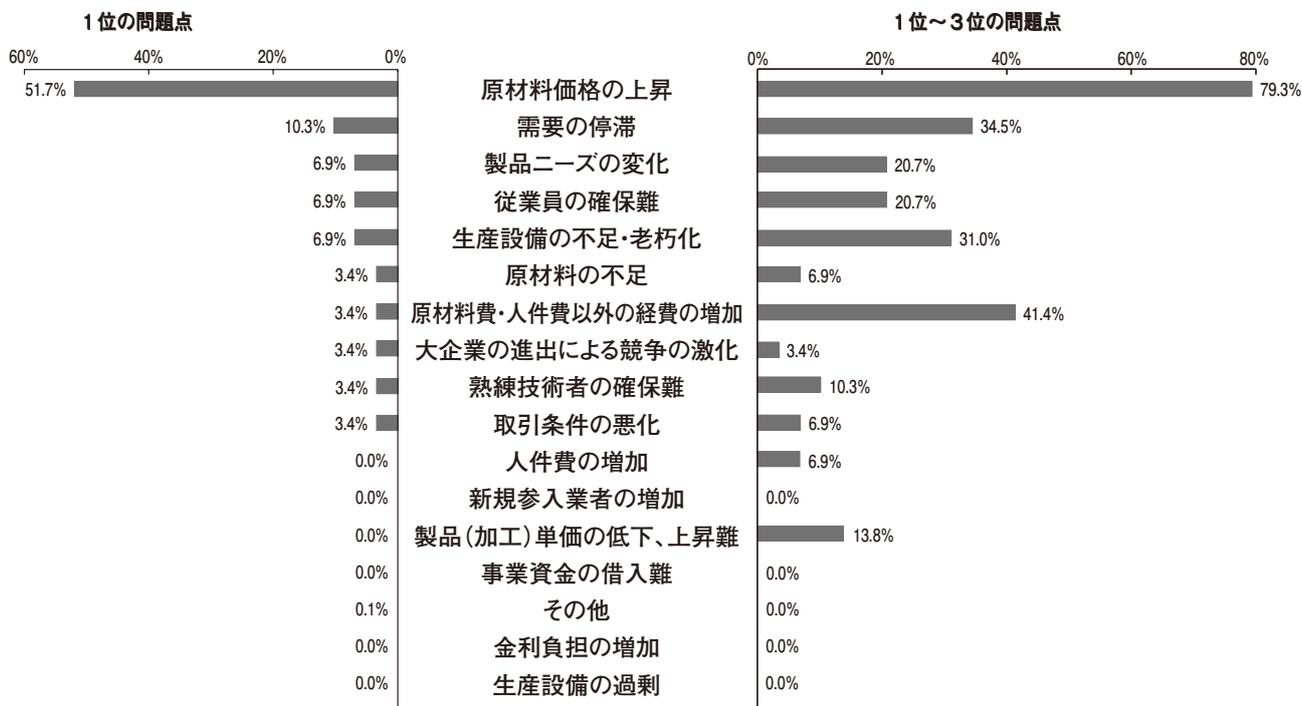
3 設備投資の状況



今期に新規設備投資を実施した企業4社（工場建物1、生産設備2、付帯施設1）、実施しなかった企業26社。来期に設備投資を予定している企業4社（工場建物1、生産設備3、その他1）、予定していない企業26社。

設備操業率DI値 -23.4（前期は-25.0、前年同期は-32.3）

4 経営上の問題点の状況（1位と1～3位）

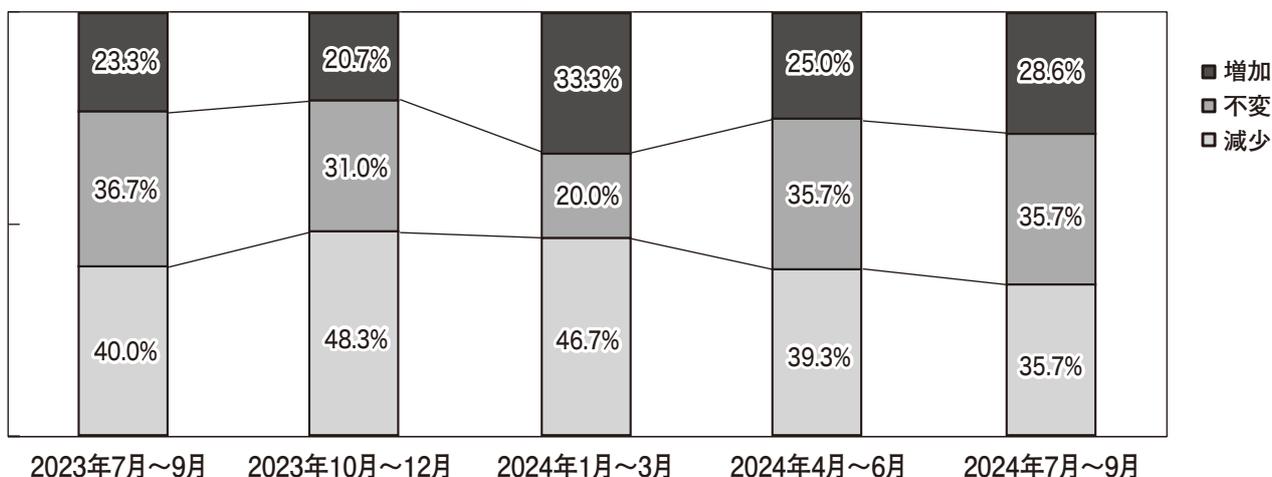


前期と比較で、「需要の停滞」・「原材料の不足」・「原材料費・人件費以外の経費の増加」の割合が低下し、「原材料価格の上昇」・「生産設備の不足・老朽化」の割合が上昇した。

借入金利 前期と比較で、「好転」3.7%（前期12.5%、前年同期は0.0%）、「不変」92.6%（前期は83.3%、前年同期は100.0%）、「悪化」3.7%（前期は4.2%、前年同期は0.0%）

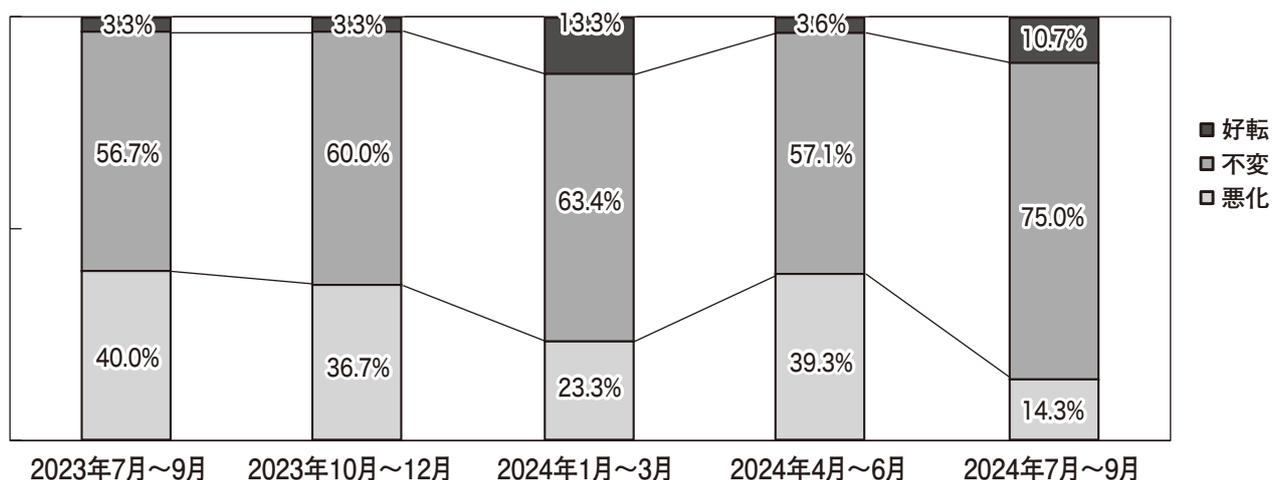
3. 山口県 建設業

1 ①完成工事額の状況 —前年同期比—



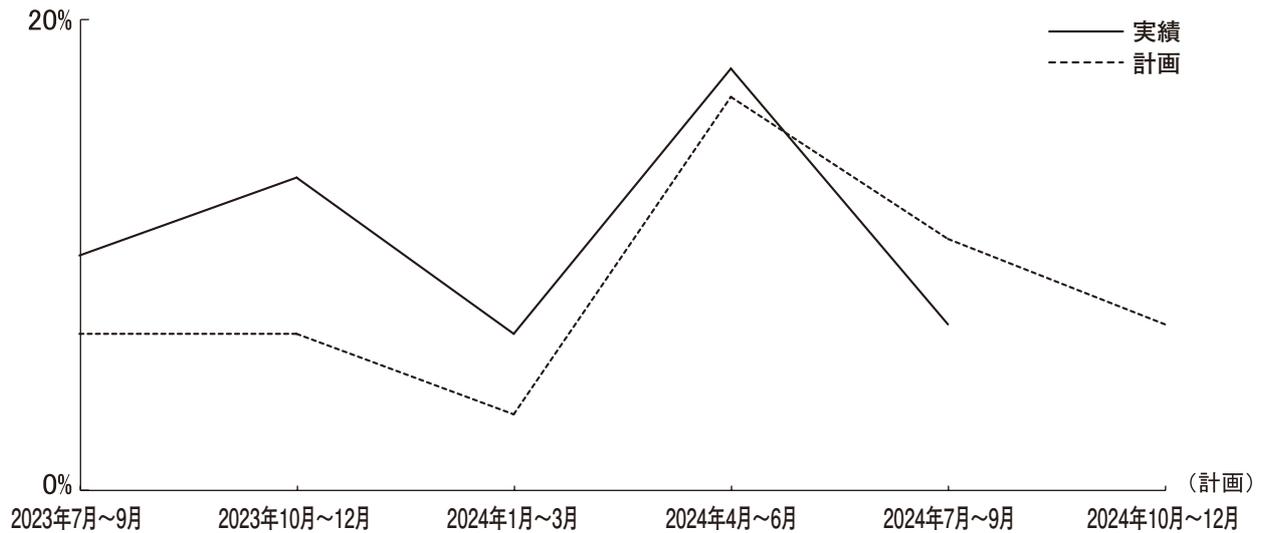
- ②前期と比較 「増加」32.1%（前期は17.9%、前年同期は16.7%）、「不変」39.3%（前期は39.2%、前年同期は33.3%）、「減少」28.6%（前期は42.9%、前年同期は50.0%）
- ③来期見通し 「好転」7.1%（前期は20.0%、前年同期は6.9%）、「不変」50.0%（前期は36.7%、前年同期は44.8%）、「悪化」42.9%（前期は43.3%、前年同期は48.3%）
- ④その他のD I 値 新規契約工事額-3.6（前期は-7.1、前年同期は-37.9）、材料仕入単価75.0（前期は89.3、前年同期は82.1）、引合い-4.0（前期は-8.4、前年同期は-15.4）

2 ①採算の状況 —前年同期比—



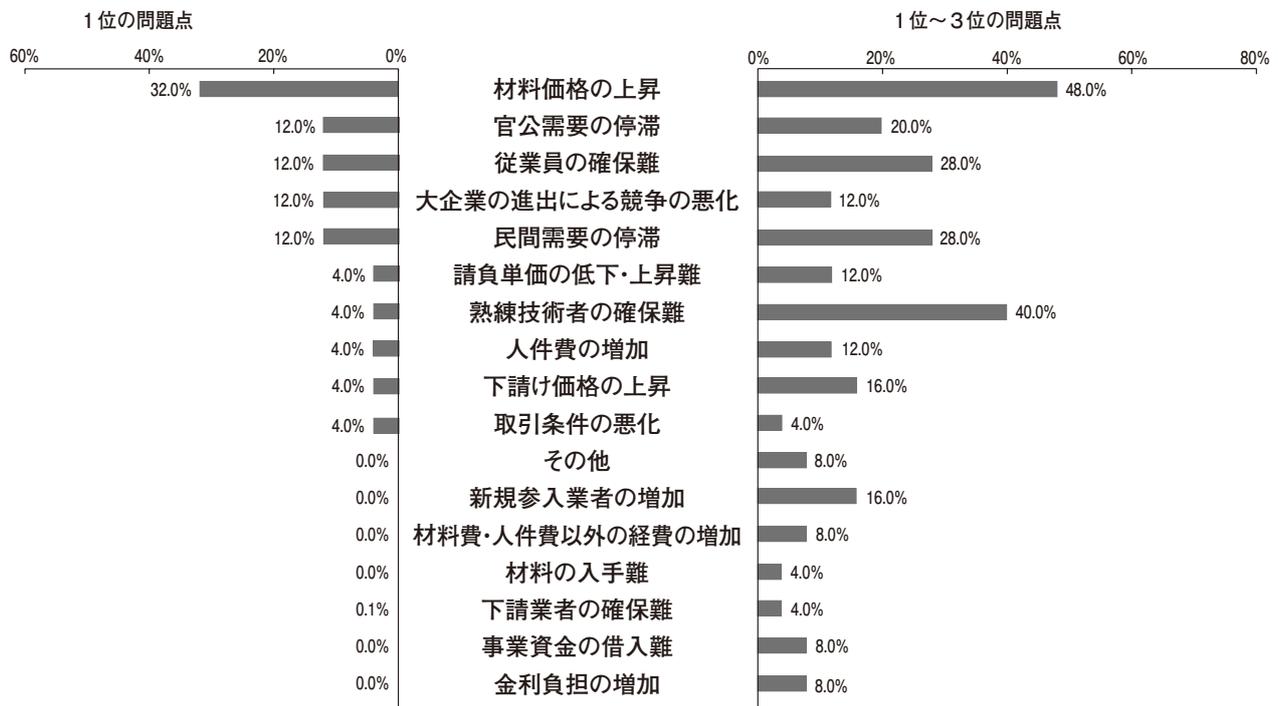
- ②来期見通し 「好転」0.0%（前期は3.3%、前年同期は0.0%）、「不変」67.9%（前期は70.0%、前年同期は60.0%）、「悪化」32.1%（前期は26.7%、前年同期は40.0%）
- ③資金繰り 前期と比較で、「好転」7.1%（前期は3.6%、前年同期は3.3%）、「不変」75.0%（前期は64.3%、前年同期は70.0%）、「悪化」17.9%（前期は32.1%、前年同期は26.7%）
来期見通しは、「好転」0.0%（前期は6.7%、前年同期は3.3%）、「不変」64.3%（前期は60.0%、前年同期は76.7%）、「悪化」35.7%（前期は33.3%、前年同期は20.0%）

3 設備投資の状況



今期に新規設備投資を実施した企業2社（建設1、車両・運搬具2）、実施しなかった企業26社。来期に設備投資を予定している企業2社（建設機械1、OA機器1）、予定していない企業26社。

4 経営上の問題点の状況（1位と1～3位）

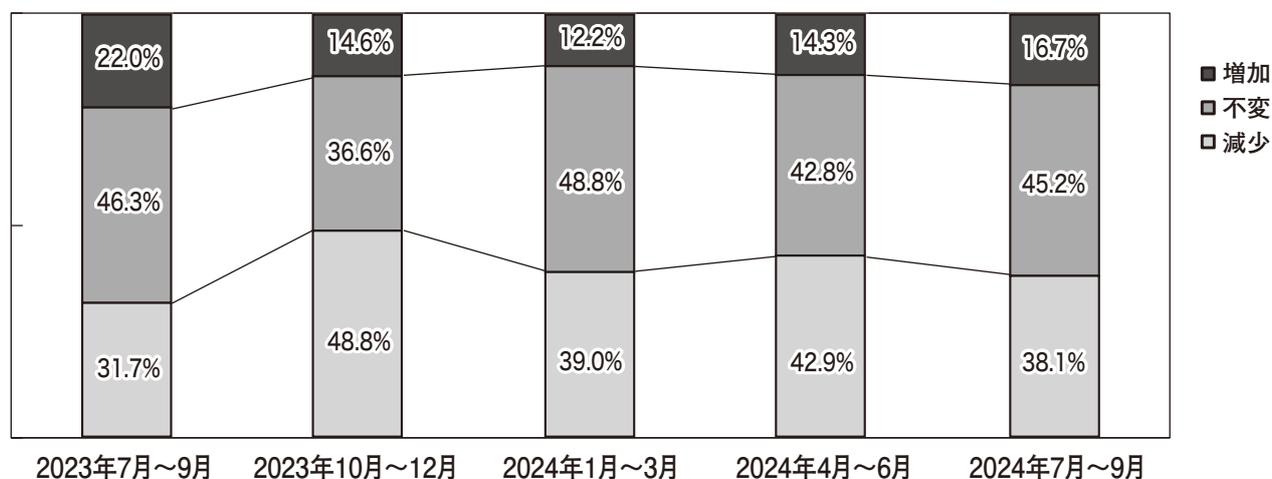


前期と比較で、「請負単価の低下、上昇難」・「官公需要の停滞」の割合が低下し、「民間需要の停滞」・「材料価格の上昇」の割合が上昇した。

借入金利 前期と比較で、「好転」13.0%（前期は 0.0%、前年同期は 8.3%）、「不変」87.0%（前期は 100.0%、前年同期は 83.4%）、「悪化」0.0%（前期は 0.0%、前年同期は 8.3%）

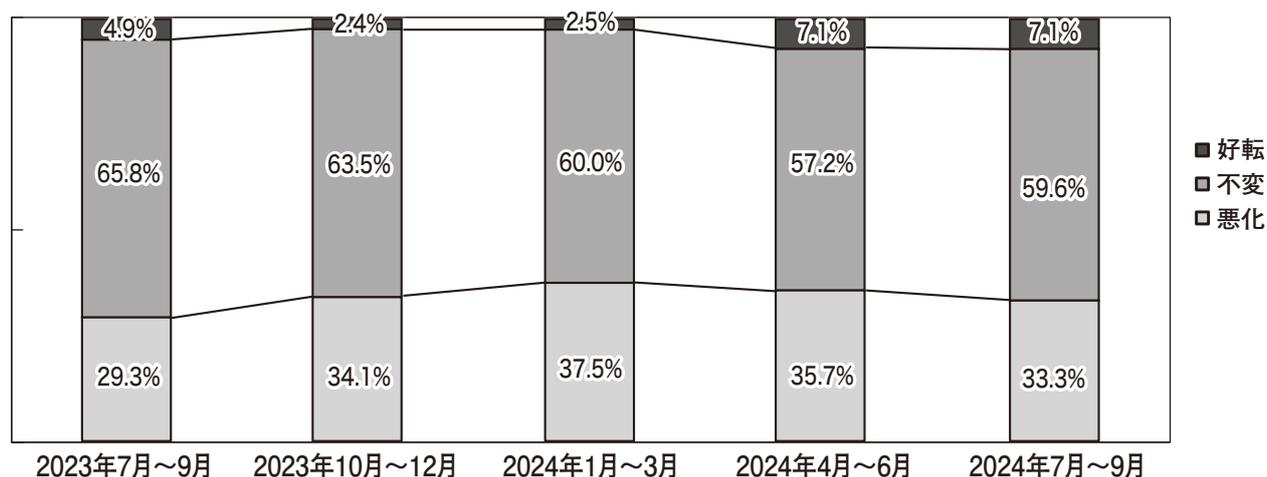
4. 山口県 小売業

1 ①売上額の状況 ー前年同期比ー



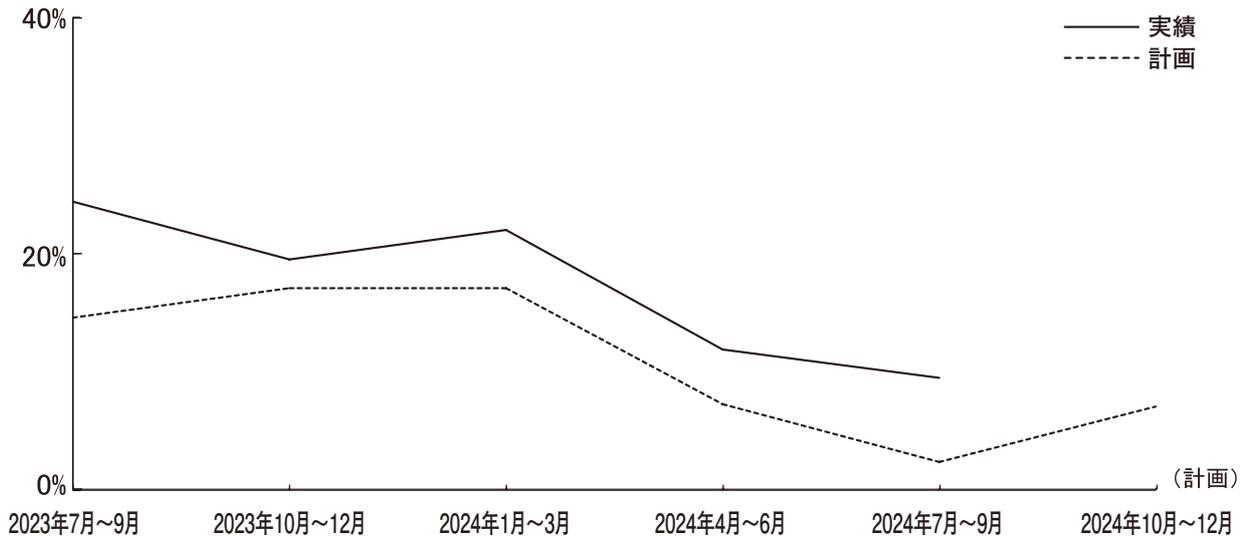
- ②前期と比較 「増加」28.6%（前期は26.2%、前年同期は26.8%）、「不変」54.7%（前期は35.7%、前年同期34.2%）、「減少」16.7%（前期は38.1%、前年同期は39.0%）
- ③来期見通し 「好転」19.0%（前期は19.5%、前年同期は10.0%）、「不変」42.9%（前期は43.9%、前年同期は47.5%）、「悪化」38.1%（前期は36.6%、前年同期は42.5%）
- ④その他のD I 値 客単価-2.3（前期は-2.3、前年同期は-7.3）、客数-19.0（前期は-38.1、前年同期-22.0）、商品仕入単価50.0（前期は54.8、前年同期は58.6）

2 ①採算の状況 ー前年同期比ー



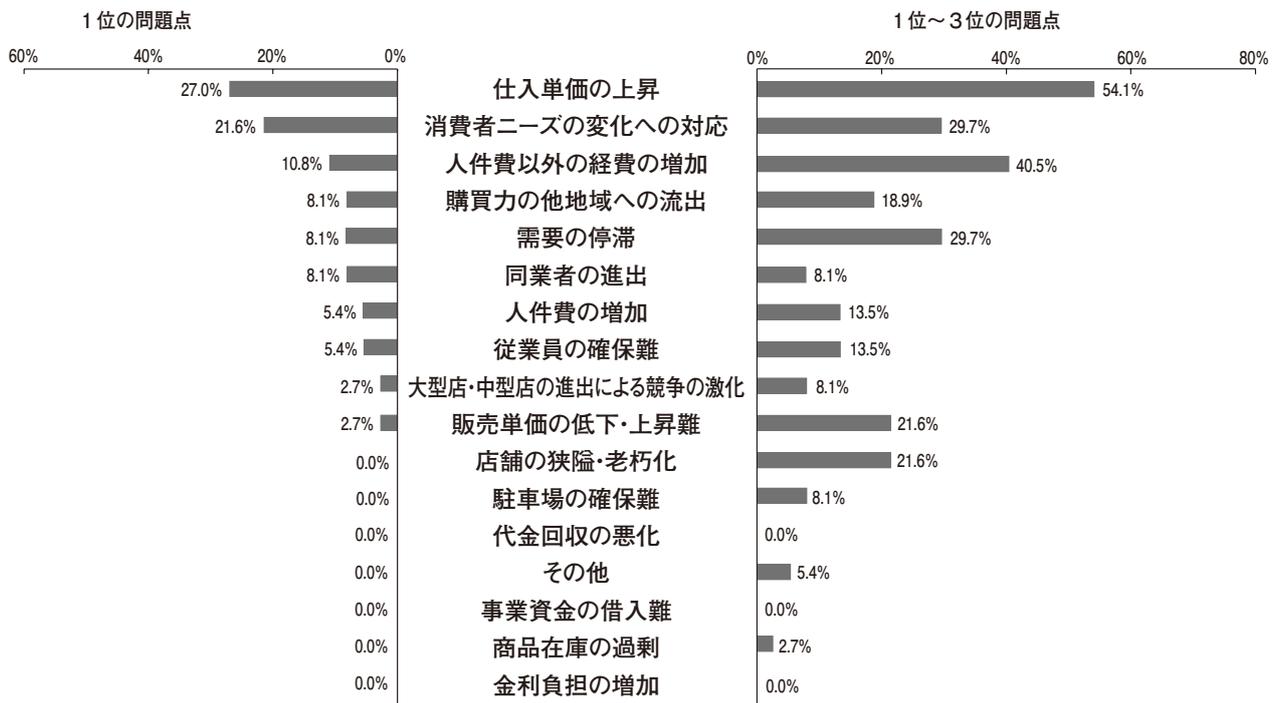
- ②来期見通し 「好転」9.5%（前期は7.5%、前年同期は2.4%）、「不変」66.7%（前期は62.5%、前年同期は61.0%）、「悪化」23.8%（前期は30.0%、前年同期は36.6%）
- ③資金繰り 前期と比較で、「好転」4.9%（前期は4.9%、前年同期は2.5%）、「不変」85.3%（前期は68.3%、前年同期は77.5%）、「悪化」9.8%（前期は26.8%、前年同期は20.0%）
来期見通しは、「好転」4.9%（前期は5.0%、前年同期は2.5%）、「不変」78.0%（前期は72.5%、前年同期は70.0%）、「悪化」17.1%（前期は22.5%、前年同期は27.5%）

3 設備投資の状況



今期に新規設備投資を実施した企業4社（販売設備2、車両・運搬具1、付帯施設1、その他1）、実施しなかった企業38社。来期に設備投資を予定している企業3社（店舗1、付帯施設1、OA機器1）、予定していない企業39社。

4 経営上の問題点の状況（1位と1～3位）

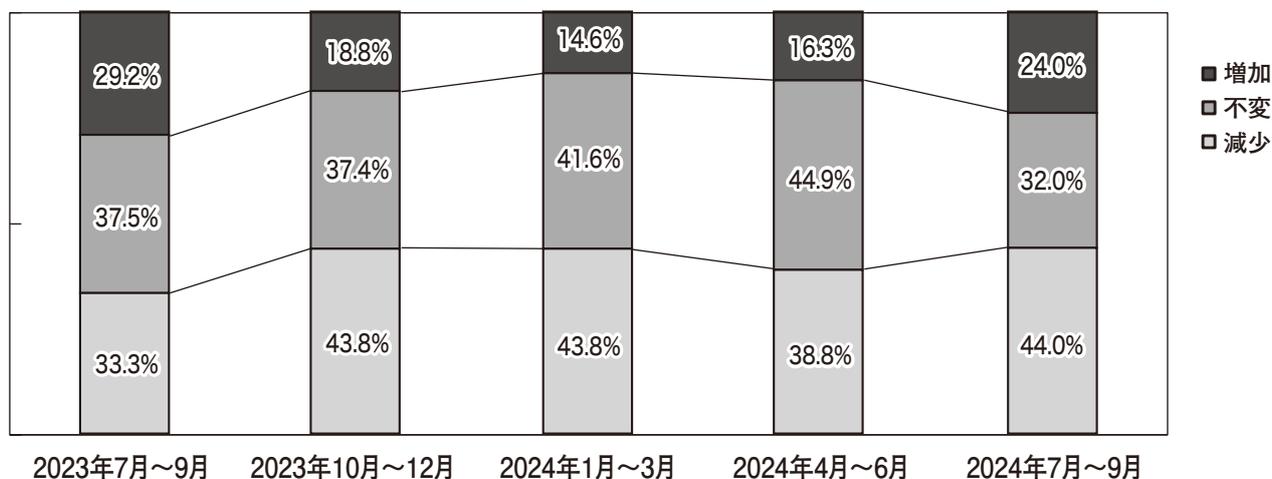


前期と比較で、「店舗の狭隘・老朽化」・「購買力の他地域への流出」の割合が低下し、「仕入単価の上昇」・「同業者の進出」の割合が上昇した。

借入金利 前期と比較で、「好転」12.1%（前期は3.1%、前年同期は10.3%）、「不変」84.9%（前期は93.8%、前年同期は89.7%）、「悪化」3.0%（前期は3.1%、前年同期は0.0%）

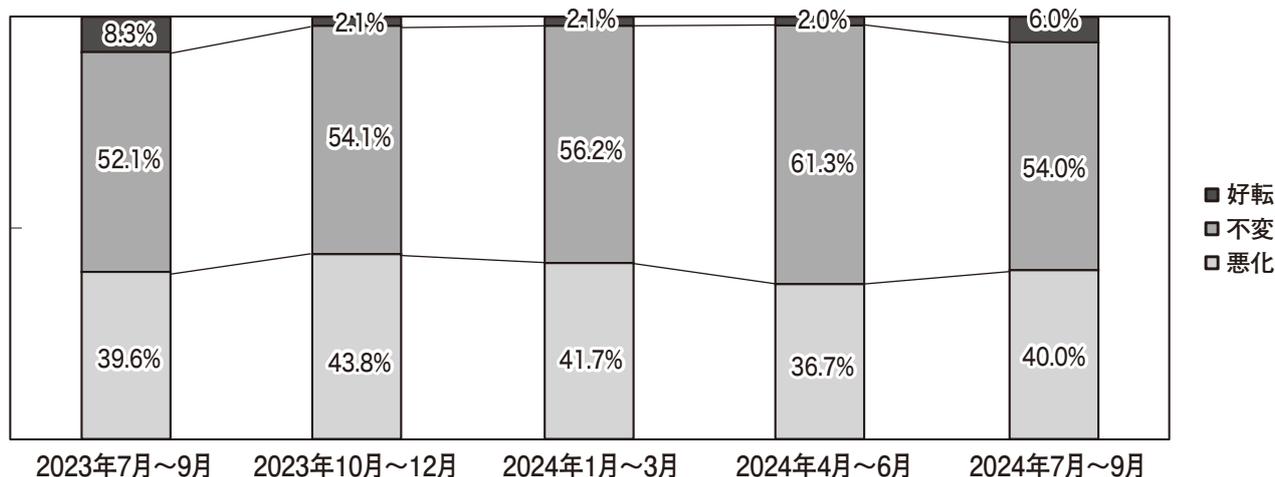
5. 山口県 サービス業

1 ①売上額の状況 ー前年同期比ー



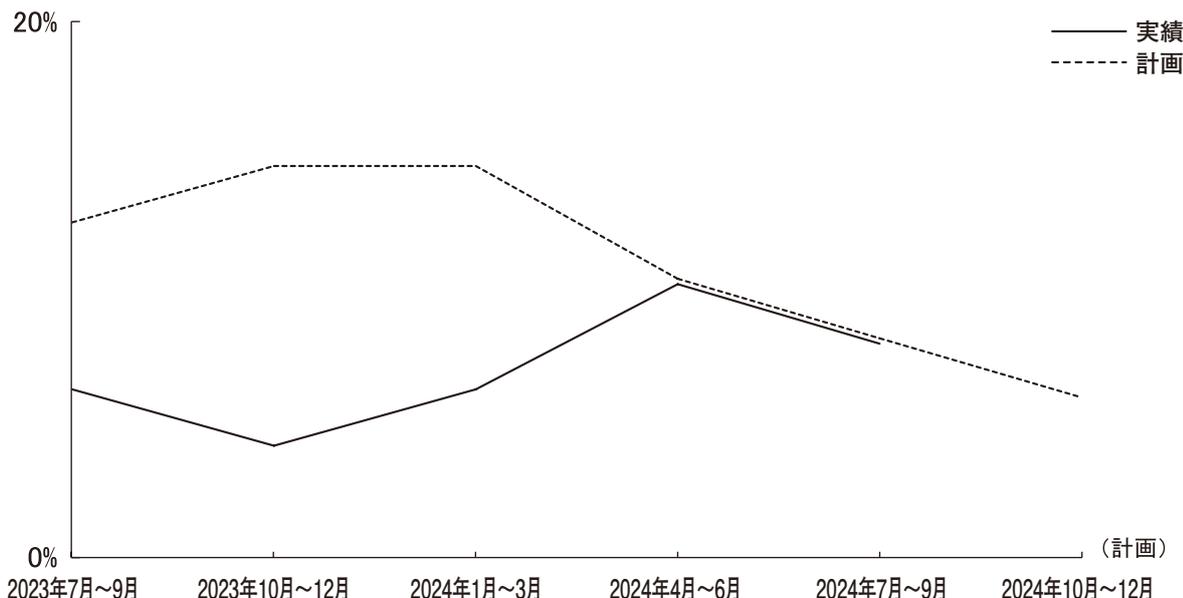
- ②前期と比較 「増加」 22.0%（前期は 28.6%、前年同期は 27.1%）、「不変」 42.0%（前期は 38.7%、前年同期は 41.6%）、「減少」 36.0%（前期は 32.7%、前年同期は 31.3%）
- ③来期見通し 「好転」 16.3%（前期は 14.6%、前年同期は 16.7%）、「不変」 57.2%（前期は 54.1%、前年同期は 52.0%）、「悪化」 26.5%（前期は 31.3%、前年同期は 31.3%）
- ④その他のD I 値 客単価 0.0（前期は -10.2、前年同期は 6.2）、利用客数 -18.4（前期は -20.8、前年同期は -20.8）

2 ①採算の状況 ー前年同期比ー



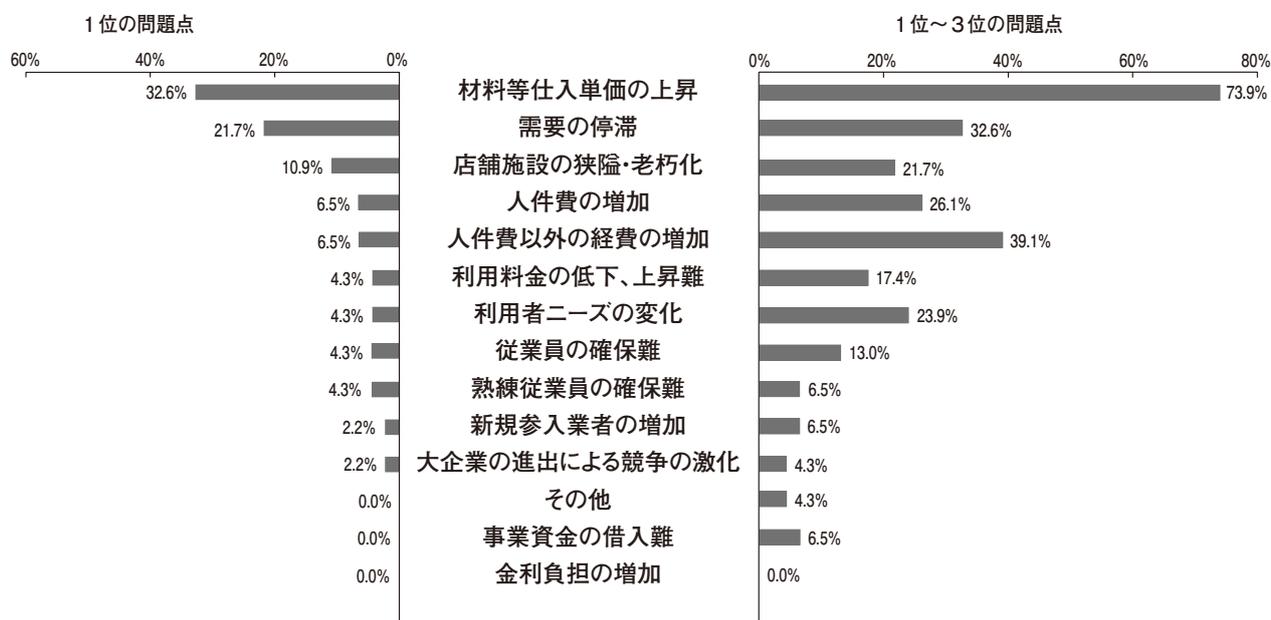
- ②来期見通し 「好転」 4.1%（前期は 8.3%、前年同期は 6.3%）、「不変」 69.4%（前期は 60.4%、前年同期は 62.4%）、「悪化」 26.5%（前期は 31.3%、前年同期は 31.3%）
- ③資金繰り 前期と比較で、「好転」 2.0%（前期は 4.1%、前年同期は 4.2%）、「不変」 78.0%（前期は 77.5%、前年同期は 68.7%）、「悪化」 20.0%（前期は 18.4%、前年同期は 27.1%）
来期見通しは、「好転」 4.1%（前期は 4.2%、前年同期は 4.2%）、「不変」 75.5%（前期は 77.0%、前年同期は 79.1%）、「悪化」 20.4%（前期は 18.8%、前年同期は 16.7%）

3 設備投資の状況



今期に新規設備投資を実施した企業4社（サービス1、付帯施設1、O A機器1、その他1）、実施しなかった企業46社。来期に設備投資を予定している企業3社（土地1、建物1、車両・運搬具1、付帯施設1）、予定していない企業47社。

4 経営上の問題点の状況（1位と1～3位）

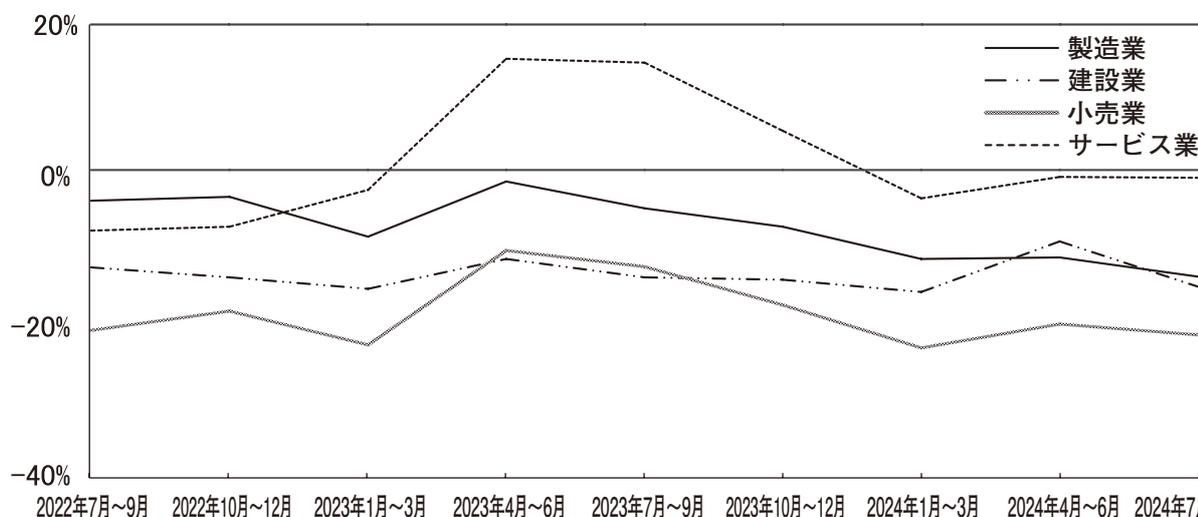


前期と比較で、「材料等仕入単価の上昇」「利用料金の低下、上昇難」の割合が低下し、「需要の停滞」・「熟練従業員の確保難」・「人件費以外の経費の増加」の割合が上昇した。

借入金利 前期と比較で「好転」5.3%（前期は 7.7%、前年同期は 2.8%）、「不変」92.1%（前期は 89.7%、前年同期は 97.2%）、「悪化」2.6%（前期は 2.6%、前年同期は 0.0%）

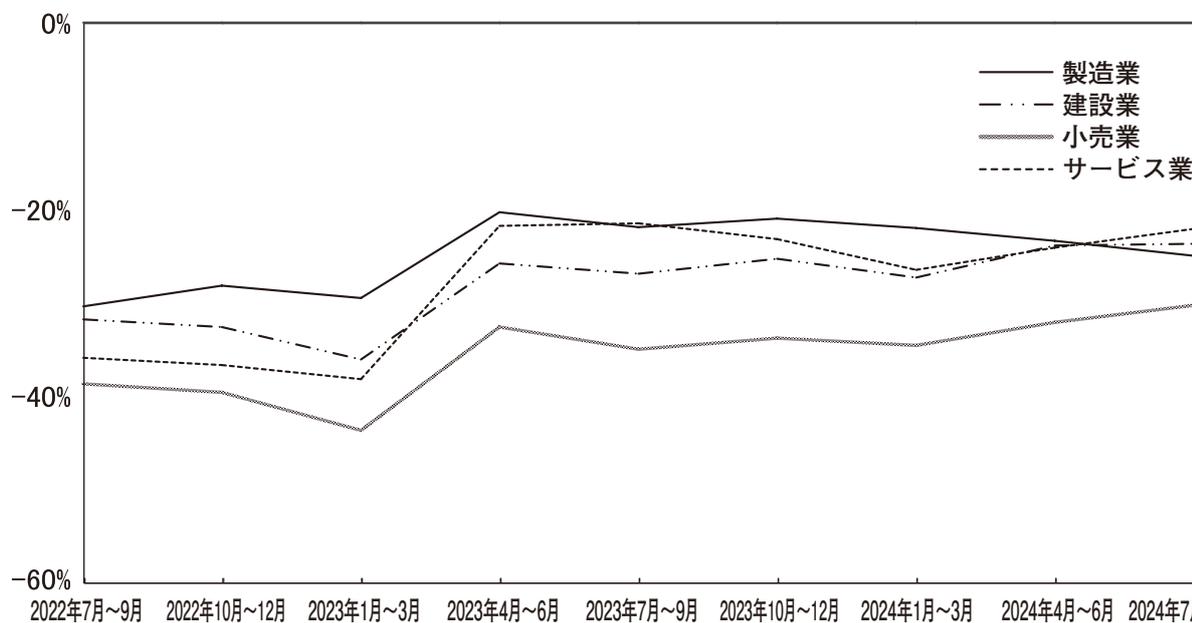
6. 全国 全産業

1 売上（完成工事）額の推移 —前年同期比—



D I 値 製造業 -13.9（前期は-11.4、前年同期は-5.0）、建設業 -15.2（前期は-9.3、前年同期は-14.0）、小売業 -21.5（前期は-20.1、前年同期は-12.6）、サービス業 -1.0（前期は-0.9、前年同期は14.0）

2 採算の推移 —前年同期比—



D I 値 製造業 -25.0（前期は-23.4、前年同期は-21.9）、建設業 -23.7（前期は-23.9、前年同期は-26.9）、小売業 -30.3（前期は-32.1、前年同期は-35.0）、サービス業 -22.1（前期は-24.1、前年同期は-21.5）

7. 山口県 調査対象企業の声

■製造業■

- 異常気象によって原材料（農産物）の病気で、仕入先の出荷量が減少し材料価格が高騰しており、製造時の水道光熱費も上昇しているため経営を圧迫している。
- 沢山の工場があれば良い。若い人たちが働ける街。素通りの美祢市では人口が増えない。老人ばかりの美祢市、土地が沢山遊んでいるので会社を多く誘致してほしい！ジオパークでは人口は増えない！
- 原材料価格において、為替（円安）の継続による上昇が引き続けている。価格転嫁による売上の増加はあるものの不安定な状況が続いている。

■建設業■

- 工事単価がようやく引き上げられ、業況が安定してきた。
- インフレ対応のため賃上げをしているが、仕事の単価が大きく上がっているわけではないので、利益は減少している。
- 物価の高騰、暑さ対策が大変です。
- 従業員の高齢化により作業員が不足している。天候に左右される仕事のため、暑さで思うように作業が進まない。人手不足の解消と、下請け業者の確保が課題となっている。
- 前期の繰越工事の完成が続き、今回の結果となりました。手持ち工事は小規模のものが残っているので、それを終わらせ、新しい工事を受注したいです。管理する者が少ないため、受注数も限られます。
- 材料価格の上昇が続いていて厳しい。
- 市外に下請けで出向くことが多いが、仕事は切れずにあるから良い方だと思う。従業員も若い者が増えたので良い兆しではある。

■小売業■

- 人口の減少、低燃費化などで長期的な売上の減少は避けられないが、今後は弊社の課題でもある販売力を強化し、油以外の商品にも力を入れていき、売上を伸ばすことが大事である。
- コロナ5類移行後にやっと、恒例の祭り等イベントや小宴会が復活した夏だった。暑さで売り上げを助けてもらったようだ。少しは好景気を実感できると我々小売業も助かってくる。
- 日本全体であまり景気の良い時代ではないため、購買意欲が下がっている。商品が出ない（来店客が減っている）こともあり、パート従業員の勤務時間を以前より短くして人件費を抑えざる負えない状況である。

- 毎月の諸経費が増加しているため厳しい経営が続くだろう。
- 次の一手を考えないと、かなり厳しい状況です。
- 飲食店の取引先が、コロナウイルス感染症の影響による閉店等により減ったため、BtoBの売上の回復幅が依然と低いままである。
- 年金生活の顧客が物価高騰の影響により、日々の生活が大変厳しく、節約志向となっている。
- 高齢化が進み若年層の割合が減少傾向にあり、個人商店の廃業も多い。こうした中、ネット販売の強化を始め、高齢者向けの商品やサービス、または地域資源を活用した事業（イベント含む）を検討中である。
- 新1年生7名～6年生18名の少子化。地区人口も年々減少し購買力が減少。仕入単価は年々上昇。売上の上昇は望めない。

■サービス業■

- 材料費・高熱費および人件費の増加により利益が出ず経営が非常に厳しい。
- 飲食店なので夏休み期間中の来店者数及び売上は増加するが、期間終了後は減少するため、町を挙げてPRなど継続的な観光客の誘致に取り組みないと、地元の利用者だけでは経営は厳しい。
- 例年通り、夏場は来場客が多く売り上げは上がっているが、仕入や人件費が上がっているため利益率は少ない。
- 異常気象や予期せぬ事故など、日本中を震撼させるような今年の前半を考えると、中々景気が上向きになるとは思えず、自社も芳しくない状況である。
- コロナ禍よりは回復したが、まだ黒字回復とはいかない。材料高騰もある程度は落ち着いたがコロナ前と比べるとまだ高値である。共同購入などスケールメリットを活かせるような窓口を設けてほしい。
- 社会の景気は上向き傾向に思うが私たちの業界では人口減少や物価高でとうぜん業績に響く、コロナも五類感染症となり人の動きも普通になりつつある。しかしまたコロナが増え景気も抑え気味ではなかろうか？
- 天候にも恵まれ地震もなく、来客数も過去一多く順調だけど、利益が比例しない。原材料の値上がりが延々と続く、労働者の高齢化が進む中で健康状態が心配になる。
- 建築関係の仕事をしているので、着工数が少ないのは非常に厳しい。
- コロナ後の反動による景気が一段落してきた感がある。今後、いかに販促PRを行い集客に結びつけていくかを、今一度検討する必要がある。
- 3～5月は営業の成果として、売上が伸びた。しかし、6月以降は猛暑日が続いたこともあり、顧客の獲得が厳しい状況となった。暑さの和らぐ9月以降に向け、広告による集客促進に取り組んでいる。
- 材料仕入単価が上昇し、経営を圧迫しております。既存客が人口の減少に伴い減少している中、新規客を獲得できるよう努力をしていますが、近隣市街地での消費が増え

ているために経営が厳しくなる一方です。

- 今期に値上げを実施した。多少、単価の低い商品に流れた感はあるが、時期的に大きく感じなかった。今後、かき入れ時に対応できる人材の確保が急務である。
- 地域の高齢化・人口減少、猛暑の影響で来店客が減少している。
- 物価の高騰と金利が安定しないので、住宅建設業者は、景気が停滞気味なのではないかと感じている。
- 猛暑もあり、お客様の来店も少なく、人件費以外の経費増加も影響し、業況は悪化してきている。